

石田英一郎 治安維持法違反で服役後、留学して民族学を修め、<敗戦>後の日本の文化人類学を確立した。

いしだえいいちろう

日比谷公園・1903 = 男爵石田八弥の長男として大阪に生まれた。

日露戦争終・1905 = 2歳 :

明治天皇没・1912 = 9歳 :

原敬首相暗殺1921 = 18歳 :

第一高等学校から、

護憲三派圧勝1924 = 21歳 : 京都帝国大学経済学部に進み、N.ネフスキーよりロシア語を学び、民族学、民俗学への関心を抱く。

治安維持法・1925 = 22歳 : 父が死去し、男爵を襲うが、

円本時代始・1926 = 23歳 : 出版法違反で拘留され、爵位を返上するとともに、京都帝国大学中退、

金融恐慌・1927 = 24歳 : 地裁判決後、

共産党事件・1928 = 25歳 : 共産党の活動に荷担したとして治安維持法により逮捕され(学連事件)、堺刑務所に服役。

海軍軍縮条約1930 = 27歳 :

満州事変・1931 = 28歳 :

帝人疑獄事件1934 = 31歳 : 釈放後、柳田国男、岡正雄らを知り、

日中戦争始・1937 = 34歳 : ウィーン大学哲学部民族学科に留学し、

第二次大戦始1939 = 36歳 : 帰国。

大政翼賛会・1940 = 37歳 : 帝国学士院東亜諸民族調査委員会嘱託、

日米開戦・1941 = 38歳 :

.....1942 = 39歳 : 翌年にかけて、東京外国語学校で学んだ後、

創価学会検挙1943 = 40歳 : 民族研究所嘱託を経て、

年金+総武装 1944 = 41歳 : 蒙古善隣協会の西北研究所の次長となり、所長今西錦司と共に張家口で研究と調査に従事。

敗戦・1945 = 42歳 : 敗戦で、

新憲法公布・1946 = 43歳 : \*引揚げ、学会誌(民族学研究)の編集を担当。

極東裁判決・1948 = 45歳 : 「河童駒引考」、法政大学教授、

朝鮮戦争始・1950 = 47歳 : 南山大学教授を経て、

独立回復・1951 = 48歳 : \*東京大学教養学部教授になると、文化人類学教室を開設。

その間、文化は構造化された超有機体的実在であり、その構造と変化の法則性は実証的研究を通じて探究されなければならないという姿勢をもって、総合の学としての文化人類学の普及に尽力し、教育方針の確立に大いに功績があった。

国連加盟・1956 = 53歳 : 「桃太郎の母」、

なべ底不況・1957 = 54歳 :

イスタラ-ク・1958 = 55歳 : 第1次東大アンデス学術調査団団長をつとめる。

美智子妃・1959 = 56歳 : 「文化人類学序説」、

安保闘争・1960 = 57歳 :

たいたい病始・1961 = 58歳 : 文学博士。

TV宇宙中継始1963 = 60歳 : \*東大を退官し、東北大学日本文化研究所教授、

東京初レヱク 1964 = 61歳 :

いざなぎ景気1966 = 63歳 : 江上波夫との編「シンポジウム日本国家の起源」、

美濃部都知事1967 = 64歳 : 退職し、翌年にかけて埼玉大学教養学部教授、

霞ヶ関レヱク・1968 = 65歳 : 多摩美術大学学長となってまもなく、肺癌で没した。